

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題		○成果	▲課題
第4学年		第5学年	第6学年
国語	○漢字や言葉の特徴や使い方の理解について定着している。 ▲文学的文章の読み取りや登場人物の心情理解や多様な要素を活用して考える問題に課題がある。	○話の細部まで聞き取り、正確に回答することができている。 ○漢字を正しく読むことができている。 ▲漢字辞典を使った調べ方を習得しきれていないところに課題がある。 ▲新聞記事の構成を理解できていないところに課題がある。	○漢字の読みが正確で、また、整理された文章から読み解くことができる。 ▲問題文に複数条件が含まれているものや、複数の資料を読みながら、聞かされていることを見付け出す問題に課題がある。
社会	○人々の関わり、働く人が具体的に理解しやすい領域において定着している。 ▲市や町の変化という抽象的な事象や時間的な変化に伴う事象についての定着に課題がある。	○遊園地や備蓄倉庫の点検は自分達で助け合えるようにするための取組であること、遊園地や備蓄倉庫に子どもやお年寄りも参加していることについて正しく理解できている。 ▲資料から玉川上水ができてからつくられたものは新田であることを読み取り、正確に考えることに課題がある。	○日本の輸出入品の変化について、日本の国出についてなど、「知識・技能」の内容が定着している。 ▲今まで学習してきたことの理解をもとにして思考を深めたり、複数の資料やグラフから読み取れることを結びつけて、表現したりする力に課題がある。
算数	○数と計算の領域についての理解が定着している。 ▲図形領域や長さ、重さなどの量感を伴う領域の理解ならびに、数学的な知識・技能の活用課題がある。	○数の仕組み、角の大きさの領域についての理解が定着している。 ▲単位の換算や割合の理解が低いとともに、問題文が長くなり読解に伴う正答率が低い。	○数と計算、図形領域についての理解が定着している。 ▲変化と関係の領域の理解が低い。また、記述問題に無回答が見られ、思考・判断・表現の力に課題がある。
理科	○身の回りの生物や物の重さ、光と音の性質についての正答率が高く、基礎的な知識・技能が定着している。 ▲磁石の性質や理学的な見方・考え方をもとに知識・技能を活用して解答する問題の正答率が低い。	○電流の働き、空気と水の性質について、基礎的な知識・技能が定着している。 ▲天体の領域の基礎的な知識の定着に課題がある。 ▲問題の理解ができていないため、実験の結果とその理由を問われると正答率が低い。	○川の場所や様子・台風の正しい説明・アサガオの名称など日頃から関わり合いの多いものへの正答率が高い。 ▲メダカの雛の特徴や電磁石など自分の日常と関わりが少くないことについての知識の定着に課題がある。
授業改善の方針			
国語	説明的文章では、文章全体の概要を正しくとらえられるよう、段落ごとの要点や段落相互の関係から文章全体の構成をつかめるようにする。また、情報を取り出すために、複数の情報から必要なところを取り出したり、筆者の主張をとらえたりする指導を、新聞記事等を活用して丁寧に行う。		
社会	既習事項を活用して考えたり、資料を正しく読み取って考えたりする学習の場面をより多く設定する。特に、単元の導入段階において、資料を丁寧に提示することで、課題設定の段階から思考を促していくようにする。 小グループ等の意見交流の場を設けながら一人一人が思考の拡張を図るとともに、納得感を得られるように収束を促していく。		
算数	様々な具体物や児童の身近な事象から問題を設定するとともに、着目する点を明確にしなが児童が思考し、互いの考えを伝え合いながら理解できるようにしていく。また、前単元の学習を振り返り、既習をもとに児童一人一人の考えを広げて授業を行っていく。		
理科	身の回りの現象に気付いたり、その仕組みを考えたりできるように授業の展開を工夫していく。「不思議だな」「どうしてだろう」といった疑問をもち、日常生活の身近な事象・現物に興味・関心を高めていくことで、理科の面白さを感じたり、理科の有用性を認識したりすることにつなげていく。		
音楽	自分の考えや思いを言葉だけでなく、音楽を通して表現できるよう、様々な表現方法等の知識・技能に触れられる授業を展開していく。また、ペアやグループ活動、集会などを通し、友達と協働しながら音楽活動をする中で、自分だけでなく他者と「歌いたい」「演奏したい」気持ちを喚起していく。		
図工	様々な材料に触れたり、用具を使ったりする中で、自分の描きたい、作りたいものを自分らしく表現できるよう、材料等の選択の幅を広げたり、様々な表現に出会わせたりする。また、造形遊びをする活動と絵や立体に表す活動の両方の活動を適切に行い、達成感や自己効力感を味わうことができるようにする。		
家庭	家庭で実践したくなるような課題設定や動機付けを行い、学習を進めていくことで、学校での学習を家庭で試そうとする主体的な意欲につなげる。また、学習の様子を家庭にも知らせ、家庭との連携を図るとともに、地域の人材も活用して学習を進めていく。		
体育	体力テストの結果を校内で分析・活用し、体づくり運動での運動内容の取り上げを弾力的に行う。また、年間指導計画の見直しを行い、体づくり運動を適宜取り入れる。一人一台端末を活用した学習カードを取り入れ、自分のできたことや今後できるようになりたいことをログとしてストックし、個別最適な学びの実現を目指す。		
外国語	授業の中で必ず児童の思いを反映できるような言語活動を設定する。実際の使用場面を具体的に設定し、「英語を話すことは役に立つ」ということが実感できるようにする。また、ペアやグループでの活動を取り入れて、どんな児童も安心して発話に臨めるようにする。視聴覚教材を工夫し、「言いたい」「聞きたい」気持ちを喚起できるようにする。		

